

商 業

1 商業部門の研究のテーマ

(1) 研究テーマ

3観点における学習評価の具体的な実践に関する研究

(2) 研究のねらい

新学習指導要領の学習評価における観点別評価は「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点により実施される。本研究では、改訂の趣旨に沿った観点別評価となるように、その評価の在り方について模索していく。

2 実践事例

(1) 単元の指導と評価の計画

① 科目名 : 簿記

② 単元名 : 決算 財務諸表の作成

③ 単元のねらい : 決算に関する知識、技術などを基盤として、企業会計に関する法規と基準を実務に適用し、適正な財務諸表の作成について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。

④ 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
財務諸表作成について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	財務諸表作成の方法と実務における課題を見だし、根拠に基づいて課題に対応している。	財務諸表作成について自ら学び、適正な財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

※単元をつらぬく問い：あなたなら財務諸表を基にどのような経営改善案を提案しますか。

⑤ 単元(題材)の指導計画 a : 知識・技術 b : 思考・判断・表現 c : 主体的に学習に取り組む態度

時	学習内容	学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法
			a	b	c	
1	決算整理前残高試算表	決算整理前残高試算表の作成について振り返る。				評価なし
2	財務諸表の作成①	勘定式の貸借対照表と損益計算書の作成について学び、基本問題を解く。	○			勘定式の損益計算書と貸借対照表の作成について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。【定期試験】
3	財務諸表の作成②	勘定式の貸借対照表と損益計算書の作成について学び、応用問題を解く。		○		財務諸表作成の方法と実務における課題を見いだしている。【定期試験】
4	決算のまとめ	作成した財務諸表における課題を見だし、根拠に基づき自らの考えを表現する。		○		作成した財務諸表における課題について他者の考えと比較し、多様な視点を基に自らの考えを表現している。 【ワークシート「私の勉強歴」】 財務諸表作成について自ら学び、適正な財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 【ワークシート「私の勉強歴」】

⑥ 第4時の授業実践例

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
導入 5分	・決算の流れと財務諸表の意義や内容を貸借対照表と損益計算書の勘定科目を基に再確認する。		
展開 35分	・架空の店舗の精算表を基に、貸借対照表と損益計算書を作成する。	・表記する勘定科目を誤っている場合、前時までの内容を基に、正しい表記にさせる。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> あなたなら財務諸表を基にどのような経営改善案を提案しますか？ </div> ・架空の店舗の財務諸表を基に経営活動の改善案を考察する。 ①改善案を貸借対照表から考察し、ワークシートに記入する。(個人) ②記入したワークシートを基に、グループで改善案を作成する。 ・他者の改善案を聞き、自らの考えに生じた変化をワークシートに記入する。 	・改善案が浮かばなさそうな場合は、貸借対照表が店舗の財政状態を表し、損益計算書が店舗の経営成績を表していることを思い起こさせ、着眼点を考えさせる。 ・記入にあたっては、自らの着眼点と他者の着眼点を比較させ、新たな視点や考え方の発見を記入するよう指導する。	【思考・判断・表現】 作成した財務諸表における課題について他者の考えと比較し、多様な視点から考えを表現している。 評価方法: ワークシート
まとめ 10分	・改善案を基に決算のもたらす意義を改めて考察し、ワークシートに記入する。	・記入にあたっては、表面的な記述にならないように、財務諸表の存在意義を改めて考察させることで、決算の重要性にも気付かせる。	【主体的に学習に取り組む態度】 財務諸表作成について自ら学び、適正な財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 評価方法: ワークシート

研究実施校：神奈川県立小田原東高等学校(全日制)

実施日：令和3年11月24日(水)

授業担当者：梅澤 奏 教諭

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程と評価のポイント

ア 学習過程の概要

(第1時)

・参考資料1 (左のみ)



第1時の初めにおいて、参考資料1 (左側のみ、右側は印刷も配付もしていない)を基に、自分の考えを参考資料2の「学習前」の欄に記入させる。

【主体的な学び】

- ・興味、関心を持つ
- ・見通しを持つ

・参考資料2

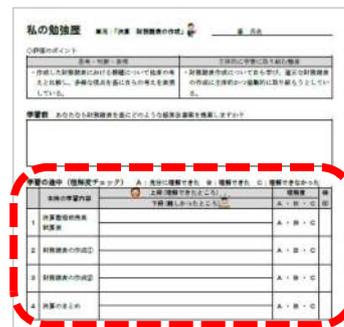


(第1時～第4時)

第1時～第4時にわたって、本時の学習の振り返りをさせ、参考資料2の「学習の途中 (理解度チェック)」の欄に、理解できたところと、難しかったところを確認させる。

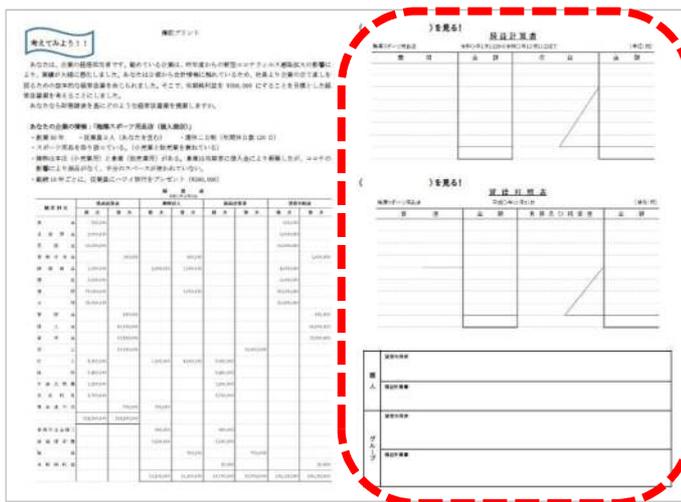
【主体的な学び】

- ・本時の学習を振り返る



(第4時)

・参考資料1 (両面)



第1時～第3時に学習した「損益計算書と貸借対照表の作成」を基に、参考資料1 (左)から財務諸表 (右)に整理させる。整理させる理由は、それぞれの財務諸表が、財政状態と経営成績を分析していくことができるという視点を明確化させるためである。その上で、個人の考えを基に、グループで協議し、最終的な自分の考えを参考資料2の「学習のまとめ」欄に記入させる。

【主体的な学び】・単元の学習を振り返る

【対話的な学び】・個人の考えを、グループ協議を通して広げ、深める

【深い学び】・簿記の視点(とビジネスの視点)をもって、経営改善案を考える

イ 学習評価について

記録に残す評価については、中央教育審議会の「児童生徒の学習評価の在り方について」（報告）において、評価が学期末等の事後に終始すること、「関心・意欲・態度」の評価手段の誤解があること、記録のための評価に労力を割かれることが指摘されている。その3点を意識して、本研究においては、「テスト」と「参考資料2」の2点をベースとして評価をしていくことによって、学習評価の在り方を大きく改善できるのではないかと考え、実践した。（本収録においては、特に「参考資料2」の評価について扱っていく。）

〈知識・技術〉

- ・テストにおいて、「事実的な知識の習得」と「知識の概念的な理解」の状況を問う（基本問題）
- ・テストにおいて、習得した技術を基に作表できるかを問う

〈思考・判断・表現〉

- ・テストにおいて、知識・技術を活用できているかを問う（応用問題）
- ・参考資料2の「学習のまとめ」の欄において、知識・技術の活用状況を見る

〈主体的に学習に取り組む態度〉

- ・参考資料2の「学習の前」の欄と「学習のまとめ」の欄においての変容を見る（量的な変化、質的な変化、情意的な変化）
- ・参考資料2の「学習の途中（理解度チェック）」の欄においての記述内容を見る
- ・参考資料2の「振り返り」の欄の記述内容を見る

上記のように、今回の評価の在り方は、どの科目・どの単元にも汎用できる評価の在り方を意識した。また、補足として、国立教育政策研究所の『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 高等学校 専門教科 商業』においては、主体的に学習に取り組む態度の評価を「粘り強い取り組みを行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」の2面について、X軸Y軸のようにグラフ化しながら評価する例が多く紹介されている。しかし、これらの二つの側面は「相互に関わり合いながら立ち現れるもの」と考えられていることから、本研究においては、X軸Y軸のようにグラフ化して見取るのではなく、一体的に見取った。

ウ 「単元をつらぬく問い」の設定

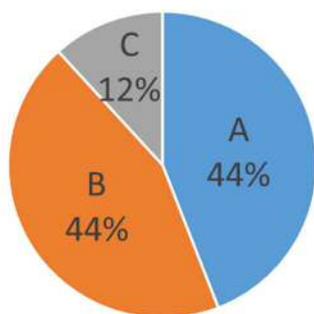
今回の研究を実践するにあたって、特に意識したことが「単元をつらぬく問い」の設定である。商業科における大きな課題は、新学習指導要領解説（総則編）に示されているように、「資格の在り方等の外部要因によって、その教育の在り方が規定されてしまい、目指すべき教育改革が進みにくい」という点である。新学習指導要領で求めている資質・能力の接頭語として、「学びを人生や社会にいかそうとする（学びに向かう力・人間性等）」「生きて働く（知識）」、「未知の状況にも対応できる（思考力・判断力・表現力等）」とあるが、その点が疎かにされ、検定に合格することや、問題を素早く正確に解くことに重点が置かれてしまい、人生にいかそうしたり、未知の状況に対応させようしたり、知識を使いこなそうしたりすることが相対的にできていない。

そこで、新学習指導要領が求めている資質・能力を育成するために、未知の状況となる「課題」と、それに取り組むための「単元をつらぬく問い」を設定した。問いづくりにあたっては、従前のように、簿記の学習を通じて単に経理担当者として作表ができればいいという段階にとどまるのではなく、単元のねらいにもあるように、作表したものを基にどのようにして、よりよいビジネスへと展開していくのかという、組織の一員としての役割を果たせる経理担当者という視点を重視できるように努めた。

(3) 参考資料2における評価について

ア 「思考・判断・表現」の評価について

「思考・判断・表現」



「学習のまとめ」欄の記述において、習得した知識や技術を活用し、他者の考えを受け入れることで、学習前と比べて発展した考え方や具体的な改善案を表現できていることを評価のポイントとした。グループ学習をしたことにより、様々な角度から物事を見る契機となり約半数の生徒が具体的な改善案を記載していた。しかし、1割の生徒は財務諸表の意義や内容を十分に理解していなかったため、簿記とはあまり関係のない記載がなされていた。

〈Aとした生徒の記述例〉

- ・取引先を再検討し、貸倒引当金の比率を再検討する。
- ・売掛金を回収し、貸倒引当金を減少させる。
- ・土地や建物などの固定資産を一部売却し、借入金の返済に充てる。資産の減少になるが、負債の減少を優先することで、無駄な支出を軽減できる。
- ・イベントや催事などに積極的に参加し、売り上げを伸ばすと同時に自社名をアピールする。
- ・水道光熱費を節約する代わりに、広告費を増加させ自社を宣伝する。
- ・借入金が多すぎるため、他社と合併する。

〈Bとした生徒の記述例〉

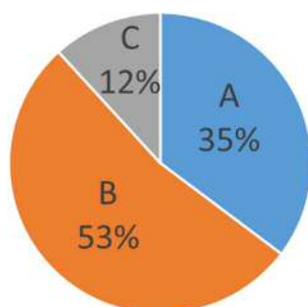
- ・売掛金を現金で回収し、取引を増やす。
- ・繰越商品が多いから、年度末に在庫処分などをする。
- ・1人当たりの給料を減らし、費用の総額を減少させることで、当期純利益を増やす。
- ・スポンサーになって、お店の知名度を上げる。
- ・給料を増額し、従業員の「やる気」を上げる。
- ・マーケティング活動を積極的に実施し、売れ行き商品などを把握する。
- ・SNSなどを利用する。
- ・売上原価を下げる。

〈Cとした生徒の記述例〉

- ・節約する。
- ・繰越商品を減らす。
- ・水道光熱費を減らす。
- ・ハワイ旅行をタイ旅行にする。
- ・とにかく出費を減らす。
- ・記載なし

イ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

「主体的に学習に取り組む態度」



「学習の途中(理解度チェック)」の欄において、授業の学習内容について、「理解できた部分」と「理解できなかった(難しかった)部分」を生徒自身が的確に把握しているかによって、その欄の記載内容に違いが表れた。理解できなかった(難しかった)部分を補って、次回の授業に臨んでいた生徒は結果として半数に満たなかったことが確認できた。

「振り返り」欄の記載では、多くの生徒において学習に対する意欲があることを確認できた。また、一部ではあったが、「発展的な問題に取り組んでいきたい」や、「他教科・他科目の学習にも波及していきたい」といった高い意欲を持つ生徒もいた。

〈Aとした生徒の記述例〉

「学習の前」の欄と「学習のまとめ」の欄においての変容

- ・水道光熱費の節約 → 使用するフロアを限定し使用電気を減らすなど具体的な案を考える。
- ・近所のスポーツ教室などに営業活動をする → 東京オリンピックで盛り上がったスポーツ(卓球や空手等)の練習場所に営業活動をする。
- ・支払利息を減らす → 借入金に対する支払利息を減らすために、借入先の銀行を見直す。

「学習の途中(理解度チェック)」欄の記述

- ・精算表と損益計算書の関係性を理解することで、売上原価の計算方法の理解が深まった。
- ・「繰越商品」という勘定科目が貸借対照表では「商品」になる意味を理解できた。
- ・前回まで学習した知識を活かすことが重要であると感じた。
- ・貸倒引当金の記入欄が売掛金の下にある意味を理解した。

「振り返り」欄の記述

- ・他者の考えを聞くことで、新たな考え方を発見することができた。
- ・学習前は、単純に費用を減らせば当期純利益が増えると思っていた。しかし、具体的な費用の削減方法を考えることがとても難しいことだとわかった。
- ・自分では考えつかなかったことが、グループ学習で知ることができた。いろんな考え方があることが分かった。これからは、いろんな方向から物事を考えようと感じた。
- ・問題を解くことが重要ではなく、学習した知識をどのように活用できるかが大切だと思った。

〈Bとした生徒の記述例〉

「学習の前」の欄と「学習のまとめ」の欄においての変容

- ・従業員を増やし接客サービスを充実させる → 給料が増額するため従業員は増やさない。
- ・売上に対して仕入が多すぎる → 期末棚卸商品の額を少なくする。
- ・借入金を減らす → 土地や倉庫を売却して借入金返済に充てる。そうすれば支払利息も減る。

「学習の途中(理解度チェック)」欄の記述

- ・仕入が損益計算書では、売上原価に変わる。
- ・何を減らせば、何が増えるのかを考えるのが大変だった。
- ・貸借対照表の中で、貸倒引当金だけ引き算をしなきゃいけないのが難しかった。

「振り返り」欄の記述

- ・簿記は単純に記録をするものではないことがわかった。
- ・簿記の勉強には、数学と国語の知識が必要だと思った。
- ・会計を担当することは、重要な仕事だとわかった。

〈Cとした生徒の記述例〉

「学習の前」の欄と「学習のまとめ」の欄においての変容

- ・記載なし
- ・同じ内容が記載されている。(変化が見られない)
- ・量的変化が見られない。(前後ともに記載量が少ない)

「学習の途中(理解度チェック)」欄の記述

- ・記載なし
- ・左から右へ数字を移せた。
- ・仕訳全部。
- ・足し算がたくさんある。

「振り返り」欄の記述

- ・記載なし
- ・自分が起業した会社だと思って考えた。
- ・少し頭が良くなった気がする。

(4) 研究の成果

ア 研究メンバーでの協議を基に

参考資料2は、主体的に学習に取り組む態度を評価していくにあたって有用なツールとなることがわかった。

- ・学習前と学習後の変化を量的・質的・情意的に見取ることができる。
- ・学習中の自身の理解状況をメタ認知することができ、自己調整に役立てられる。
- ・学習の振り返りを通して、今後の学習にどのように繋げていくかを意識づけられる。

さらに、この参考資料2を定型とすることにより、科目ごと・単元ごとにも汎用させることができることも研究の成果と言える。科目・単元ごとに応じて、主体的に学習に取り組む態度の評価をしていくことも考えられるが、定型を用いていくことによって、評価に割く(評価の方法を考えたり、実際に評価したりする)時間を削減でき、評価の在り方を生徒と共通理解することができ、評価材料としても蓄積できることになり、適切な評価につながっていくと考えられる。

イ 生徒の振り返りの記述を基に

〈思考力・判断力・表現力等の育成に関わる記述〉

- ・これから簿記をやるときは、仕訳とか作表ができることだけを考えるのではなく、それをどのように活用していくのかを考えることが大切だと思った。
- ・今日の学習を振り返り、簿記は記録だけのものではなく、それを見て改善点を見つけ出していくものだ改めて理解した。
- ・簿記は奥が深いと思った。お金を扱うのは責任が伴うので、慎重にやらなければならないと思った。

〈学びに向かう力・人間性等の涵養に関わる記述〉

- ・自分なりに一生懸命取り組んで、考えもまとめていたけれど、友達の意見を聞くと新しい発見があった、とても楽しかった。決算はとても難しいと感じていたけれど、やっていくうちにどんどん理解できた。今後、友達と考える時間を増やしたいと思った。
- ・最初、全くわからなかったけれど、先生の話や、友達の話聞いて、当期純利益の増やし方を考えることができた。簿記だけではなく、ビジネス基礎など、さまざまな科目と関わり合っているの、他の科目も一緒にがんばっていきたい。

以上の記述からもわかるように、単元をつらぬく問いを中心とした「知識・技術」を活用する場面の

設定によって、簿記に対する考え方や、取り組む姿勢に変化をきたしたことが読み取れる。このような学習活動を各単元で行っていくことによって、新学習指導要領の目指していきたい学びに近づき、資質・能力の育成に繋がることを確認できたことは大きな成果である。

(5) 研究の課題

ア 実行可能性について

単元をつらぬく問いを中心とした「知識・技術」を活用する場面の設定をすることが容易ではないということが課題である。その要因は二つ考えられる。

まず一つとして、検定中心の学習の在り方から脱却しにくいということである。これまでの検定中心の学習の在り方を変更することに(合格率が下がる、学習範囲が終わらないなどから)抵抗を感じる教員が少なくない。また、第1時から第3時はこれまで通りの授業であるが、授業の進度を合わせているため、1人だけが第4時のような授業を追加することが難しいという背景がある。

もう一つが、そもそも問いや課題を作ったことが少ないために、作成等への時間がかかり、躊躇してしまうことである。教材研究の時間が少ないことや、課題の難易度の設定や授業の展開などに不安を感じ、「知識・技術」の習得を中心とした学習のまま留まってしまうと考えられる。

イ 参考資料2について

「評価のポイント」の表現を変える必要があった。生徒においては、定期試験が成績に用いられているという認識はあるが、特に「思考・判断・表現」や「関心・意欲・態度」についてはどのように評価されているのかわかりづらいという側面が少なからずある。そこで、参考資料2が「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の評価の対象になるということを示すために、参考資料2の最初に評価規準を「評価のポイント」として示した。しかし、その表現等が生徒になじまず、生徒との間に評価に対する共通理解をするには難しかったという感覚を研究メンバーのうちで共有した。今後においては、より生徒に理解しやすい表現に変える(評価規準の表現をより具体的にしたり、生徒視点の表現にしたりする)ことが望ましいとまとまった。

あなたは、企業の経理担当者です。勤めている企業は、昨年度からの新型コロナウイルス感染拡大の影響により、業績が大幅に悪化しました。あなたは日頃から会計情報に触れているため、社長より企業の立て直しを図るための抜本的な経営改善を命じられました。そこで、当期純利益を ¥500,000 にすることを目標とした経営改善案を考えることにしました。

あなたなら財務諸表を基にどのような経営改善案を提案しますか。

あなたの企業の情報：「梅澤スポーツ用品店(個人商店)」

- ・創業 50 年 ・従業員 3 人(あなたを含む) ・週休二日制(年間休日数 120 日)
- ・スポーツ用品を取り扱っている。(小売業と卸売業を兼ねている)
- ・建物は本店(小売業用)と倉庫(卸売業用)がある。倉庫は当期首に借入金により新築したが、コロナの影響により商品がなく、半分のスペースが使われていない。
- ・勤続 10 年ごとに、従業員にハワイ旅行をプレゼント(¥300,000)

精 算 表
令和〇年12月31日

勘定科目	残高試算表		整理記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	620,000						620,000	
当座預金	2,000,000						2,000,000	
売掛金	10,000,000						10,000,000	
貸倒引当金		100,000		900,000				1,000,000
繰越商品	1,000,000		4,000,000	1,000,000			4,000,000	
備品	2,000,000						2,000,000	
建物	70,000,000			3,500,000			66,500,000	
土地	20,000,000						20,000,000	
買掛金		600,000						600,000
借入金		90,000,000						90,000,000
資本金		13,500,000						13,500,000
売上		20,000,000				20,000,000		
仕入	8,900,000		1,000,000	4,000,000	5,900,000			
給料	6,480,000				6,480,000			
水道光熱費	1,200,000				1,200,000			
支払利息	2,700,000				2,700,000			
現金過不足		700,000	700,000					
	124,900,000	124,900,000						
貸倒引当金繰入			900,000		900,000			
減価償却費			3,500,000		3,500,000			
雑益				700,000		700,000		
当期純利益					20,000			20,000
			10,100,000	10,100,000	20,700,000	20,700,000	105,120,000	105,120,000

私の勉強歴

単元：「決算 財務諸表の作成」



番 氏名

参考資料 2

◇評価のポイント

思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・作成した財務諸表における課題について他者の考えと比較し、多様な視点を基に自らの考えを表現している。	・財務諸表作成について自ら学び、適正な財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

学習前 あなたなら財務諸表を基にどのような経営改善案を提案しますか？

学習の途中(理解度チェック) A：十分に理解できた B：理解できた C：理解できなかった

	本時の学習内容	上段(理解できたところ)	理解度 A・B・C	検 印
		下段(難しかったところ)		
1	決算整理前残高試算表		A・B・C	
2	財務諸表の作成①		A・B・C	
3	財務諸表の作成②		A・B・C	
4	決算のまとめ		A・B・C	

学習のまとめ あなたなら財務諸表を基にどのような経営改善案を提案しますか？

【振り返り】



この単元の学習にどのように取り組みましたか？今後どのように学習していきますか？

【先生のコメント】

経営改善案の例

○損益計算書から

- ・売上が少ない … コロナの影響を打開する新規プロジェクト等を始める
- ・給料が少ない … コロナの影響を打開するための従業員のモチベーションを上げる目的で上げる
- ・支払利息 … 金利を下げてもらえないか、銀行に相談する
- ・現金過不足による異常に多い雑益 … 経理の在り方を見直す

○貸借対照表から

- ・売掛金の不良債権化をなくす(貸倒率が高い)… 掛け売りの管理をしっかりする。
- ・売掛金の残高が多い … できる限り現金取引や、振り込み等によって信用取引をなくす。
- ・買掛金の残高が少ない … できる限り現金取引や、振り込み等をせず、信用取引をお願いする。
- ・商品在庫が4倍になってしまっている … クリアランスセールなどで不良在庫を現金化する。
- ・借入金が多すぎて、経営が不安定になっている(支払利息分、来年払えるか?)
… 倉庫を処分し、借入金の返済に充て、卸売業をやめる

財務諸表の解答

損益計算書

梅澤スポーツ用品店

令和○年1月1日から令和○年12月31日まで

(単位:円)

費用	金額	収益	金額
売上原価	5,900,000	売上高	20,000,000
給料	6,480,000	雑益	700,000
貸倒引当金繰入	900,000		
減価償却費	3,500,000		
水道光熱費	1,200,000		
支払利息	2,700,000		
当期純利益	20,000		
	20,700,000		20,700,000

貸借対照表

梅澤スポーツ用品店

平成○年12月31日

(単位:円)

資産	金額	負債及び純資産	金額
現金	620,000	買掛金	600,000
当座預金	2,000,000	借入金	90,000,000
売掛金 (10,000,000)		資本金	13,500,000
貸倒引当金 (1,000,000)	9,000,000	当期純利益	20,000
商品	4,000,000		
備品	2,000,000		
建物	66,500,000		
土地	20,000,000		
	104,120,000		104,120,000